

令和3年度通学路安全対策推進モデル地域研究事業の取組

大洲市教育委員会

1 取組の目的

通学路における、交通や防犯の各観点での安全を確保するため、学校や地域及び関係機関が一体となり安全に取り組むとともに、対策必要箇所の整備を計画的に推進し、安全・安心な通学路を確保する。小中学校においては、様々な危機から、自らの命を守ることを基本とした指導を通じて、児童生徒の実践力を高め、事業の成果を地域に広く啓発する。

2 取組の内容

(1) 大洲市通学路安全合同点検

ア 点検日 令和3年8月26日（木） 終日

イ 参加者 関係小中学校担当者、県大洲土木事務所、大洲警察署、市建設課・市都市整備課・市危機管理課、市スクールガードリーダー、関係自治会役員、安全協会支部、市教委担当者

ウ 点検箇所 28箇所

エ 点検の様子



【喜多小前交差点】



【若宮旧道カーブ】



【徳森コンビニ前】



【大洲南中前市道】



【大洲郵便局前】



【平野明日香地区国道】

(2) 第1回通学路安全推進実践委員会

ア 実施日 令和3年9月9日（木）

イ 実施内容（一部参加者はリモート参加）

- ・ 各小中学校の危険箇所報告

- ・ 通学路点検結果報告
- ・ 危険箇所に関する道路管理者からの報告
- ・ 協議
- ・ 指導助言（県通学路安全対策アドバイザー、保健体育課指導主事）



【リモートでの会議】



【参加委員での協議】



【アドバイザーの助言】

(3) 喜多小学校での事前授業

ア 実施日 令和3年11月8日(月)

イ 実施内容

- ・ 指導者 愛媛大学社会共創学部 松村 暢彦 教授
- ・ 4年生の総合的な学習の時間における学習の方針説明等
- ・ 児童への授業の実施
- ・ 関係教員と今後の流れ協議



【事前授業の様子】

(4) 喜多小学校での授業公開

ア 実施日 令和3年11月30日(火)

イ 実施内容

- ・ 参加者(通学路安全推進委員、道路管理者、小中学校担当者等)
- ・ 4年生の総合的な学習の時間を公開
- ・ 学校からの報告と全体での研究協議
- ・ 指導助言(県通学路安全対策アドバイザー、保健体育課指導主事)



【班別話し合い】



【危険箇所の発表】



【完成した安全マップ】



【アドバイザーの指導・助言】



【授業後の協議】



【授業後の協議】

(5) 第2回通学路安全推進実践委員会

ア 実施日 令和3年12月21日(火)

イ 実施内容

- ・ 各小中学校の危険箇所現状報告
- ・ 各道路管理者からの改善状況報告
- ・ 協議
- ・ 指導助言(県通学路安全対策アドバイザー)



【第2回通学路安全推進実践委員会の様子】

(6) 安全マップの配布

ア 実施内容

喜多小学校4年生が作成した安全マップを、喜多小学校周辺の各戸に配布

イ 構成

A3版で、上段に喜多小学校での通学路の安全に関する学習の取組について紹介し、4年生から地域住民へのお願いや4年生の交通安全への決意と感想等を記載

喜多小学校での通学路の交通安全にかかるお知らせとお願い

喜多小学校4年生では、今年の総合的な学習の時間を使って、みんなで話し合いながら、わたしたち喜多小学校の**通学路安全マップ**を作りました。

1学期から、私たちの通学路を調査したり、今年全員に配られたタブレット上で危険箇所の確認をしたりしました。そして、学級や班で話し合いを繰り返し、次のような安全マップを完成させることができました。



完成した喜多小学校付近の通学路安全マップ



グループでの話し合いのようす



調べたことの発表のようす



グループでの調査のようす

私たちが、ふだんの登下校で感じている通学路の危険箇所を、地域の皆さんにも知っていただき、これからも一層交通安全に注意して運転していただくようお願いいたします。

右側には、4年生の交通安全についての意見やお願い、感想をまとめています。

また、下の地図は、完成した安全マップを、見やすく直したものです。よく見えるところに貼って、みんなで交通事故を減らしていきましょう。

～学習を振り返っての感想～
喜多小学校4年生一同

【命を守るために自分たちにできること】

- グループの発表で、喜多小校区には多くの危険箇所があって危ないと思った。左右を見たり、カーミラーなどをちゃんと見て渡ったりしなければならないと思った。
- この学習を通して、通学路には危険がたくさんあることが分かったので、その場所を通る時には、特に気を付けたいと思った。
- 交差点やカーブでの事故が多いことが分かったので、車が来るかもしれないと予測して行動しようと思った。
- 草や建物で右や左から来る車が見えないところでは、きちんと「この先に車が来るかもしれない」とか予測して事故にあわないようにしたい。
- 通学路安全マップで紹介されていないところも注意し、登下校や友達の家に行く時などでも気を付けたい。
- 自分の身を守るために「予測し」「考え」「実行する」の3つのことを意識していきたい。そして、自分の命を大切にしていきたい。

【地域の人をお願いしたいこと】

- 死角になる場所には、カーミラーを付けてほしい。
- カーミラーが付いている場所では、自転車や歩行者、車がいなくよく見て通ってほしい。
- 信号のない横断歩道では、一度止まって歩行者を優先してほしい。
- 細い道では、車のスピードを落として通ってほしい。
- 運転手の人とアイコンタクトをすることで事故を防げることが分かったので、車を運転するときは、歩行者とアイコンタクトをしてほしい。

【地図を作った感想】

- 大地図が完成した時、たくさんの危険箇所があることが分かったので、地域の人にもそのことを伝えたい。
- おまわりさんや大学の先生の話聞いたことを生かして大地図が完成したと思った。教えていただいたことに気を付けて生活したい。
- この学習を生かして、次どうなるかを予測して、行動していきたい。また、他の人たちにも危険な場所を教えていきたい。
- 日頃から、危険を察知して行動していきたい。そして、もっとたくさんのヒヤリ箇所を見つけていきたい。

【安全マップ上段】

下段には、作成した安全マップを地図に再配置し、4年生がまとめた危険箇所の写真と解説などを記載



【安全マップ下段】

ウ 印刷数

2000部

エ 地域への配布

公民館を通じ、喜多小学校周辺の関係地域約2000戸に、回覧板にて配布

3 取組の成果

- 小中学校、教育委員会、県大洲土木事務所、市建設課等の横の連携を図ることができ、共通認識のもとで通学路の改善に取り組むことができています。
- 共通の通学路危険箇所調査を関係各担当部署に行った結果、全体のデータの整合性がとれ、責任部局が明確になった。
- 県通学路安全対策アドバイザーの指導や具体的な助言を機会あるごとに聞くことができ、児童生徒の安全確保の実践につながっている。
- 学校が、各道路管理者や警察から具体的な改善の見通しや法に基づく対応を聞くことができ、児童生徒への指導や保護者への啓発に生かすことができた。
- 拠点校での安全教育が大きく進み、市内各校に通学路の安全に関する啓発や取組の工夫についての例示ができた。
- 市内で最も通学路の安全に配慮が必要な喜多小学校の通学路に関する安全マ

ップを作成し、地域に配布することができた。

4 今後の課題

- 本事業では、事業の認可から終了までの期間が短く、その間の道路の改善を十分には進めることができない。
- 学校の感じる危険箇所と道路管理者や警察でとらえている危険箇所の緊急度に差があり、学校や児童生徒、保護者の望む安全対策がなかなか進まない傾向がある。
- 公立小中学校では、業務改善の取組の真っ最中であり、通学路の安全については、学校だけで進めるのではなく、保護者や地域住民、地域社会が積極的に動くための取組を進める工夫も必要である。
- 配布した安全マップを基に、地域の通学路の安全について、一層啓発する活動を継続させることが必要である。
- 通学路の安全を確保するためには、一層の環境改善が必要であるが、そのためには、それぞれの事情で長い時間を要する。その間、学校の児童生徒への指導で対応する必要があり、相変わらず学校・教師の負担が大きい。